

3 生物多様性ホットスポット

(1) 目的

生物多様性ホットスポットとは、1988年にイギリスの生物学者ノーマン・マイヤーズ博士により、「地球規模での生物多様性が高いにも関わらず、破壊の危機に瀕している地域」として、優先的に保全すべき地域を特定するための考え方として提唱されたものである。平成19年11月に閣議決定された国の「第三次生物多様性国家戦略」においても、生物多様性ホットスポットの選定と保護が重要な戦略として位置づけられている。

こうしたことから、今回、奥山における環境配慮に役立てることを目的として、希少種が集中する地域を優先的に保全すべき生物多様性ホットスポットと位置づけ、その抽出を試みた。

(2) 方法

検討対象地域の動植物の生息生育情報をまとめた自然環境データベースを作成し、愛知県第2次レッドリスト掲載種を抽出した。抽出された希少種をレッドリストのランクにより重みづけをした上で、植物、動物それぞれの評価点合計を3次メッシュ（約1 km×1 km）ごとに算出した。

植物、動物それぞれについて、相対的に評価点合計の高いメッシュを抽出し、植物、動物ともに評価の高い地域を生物多様性ホットスポットとして抽出した（図1）。

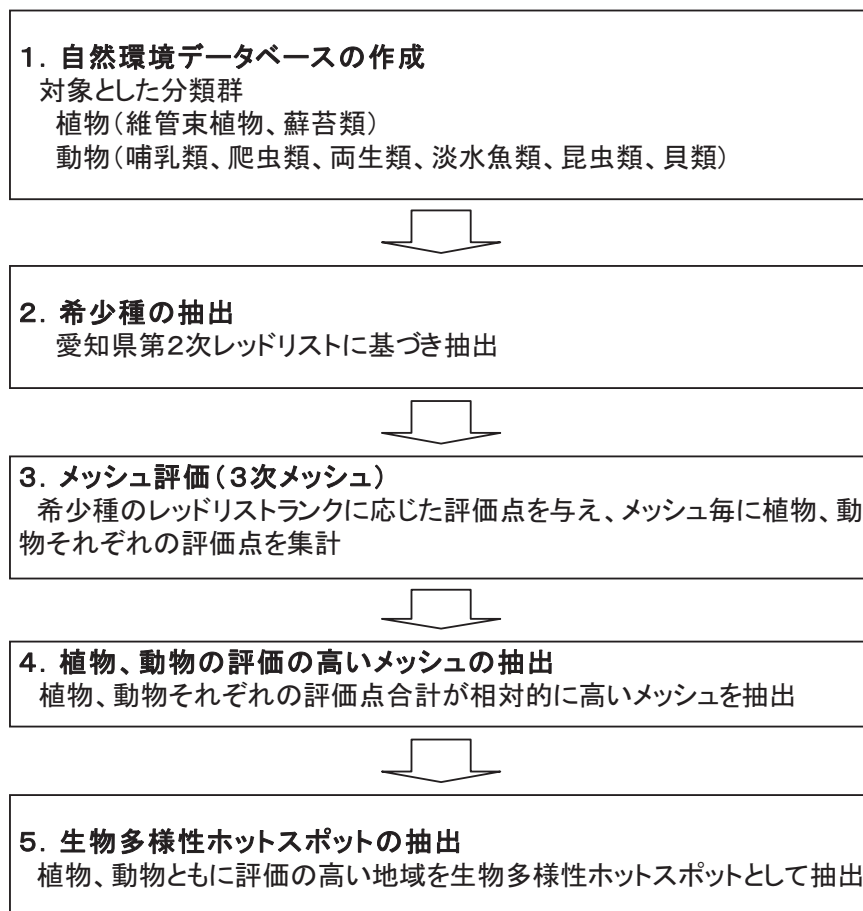



図1 生物多様性ホットスポットの抽出方法

(3) 生物多様性ホットスポットの概要


植物、動物の希少種が集中する地域である生物多様性ホットスポットを抽出方法に基づき抽出した結果、検討対象地域では、茶臼山、段戸山・寧比曾岳、鳳来寺山、雨生山の4地域が抽出された。

抽出された4地域の自然環境の特徴や確認記録のある希少な動植物、特徴づける環境について、それぞれ概要にまとめた。なお、生息生育確認記録のある希少な動植物については「レッドデータブックあいち 2009」に掲載されている種のうち、絶滅危惧Ⅱ類（VU）以上を記載した。


生物多様性ホットスポットの概要(①茶臼山地域)

地域名	茶臼山地域
自然環境の特徴	<p>茶臼山周辺はブナクラス域となっており、愛知県では数少ないブナクラス域の自然植生が存在し、その周辺にはブナクラス域の代償植生が広く分布している。このため、ウダイカンバ、ヒメイチゲなどブナクラス域に生育する植物の生育確認記録がある。動物ではブナクラス域の自然植生があり、自然性が高く、大木が生育していることから、コテングコウモリといった樹洞性コウモリ類の生息確認記録がある。</p> <p>茶臼山の南側には牧草地やスキー場などの二次草原が広がっており、このような草地を主な生息場所とするやチャマダラセセリなどの草地性のチョウ類の生息確認記録がある。</p> <p>最近では、ニホンジカ等の大型獣類による食害の影響が生じている。</p>
確認記録のある希少な動植物	<p>【植物】 CR:クロゴケ、ヒカリゴケ EN:イチイ、オオバショリマ、シオガマガク、セリバシオガマ、ヒロハテンナンショウ、ベニバナイチヤクソウ、ヤマクワガタ、ユモトマムシグサ、エゾチョウチンゴケ、ナミガタチョウチンゴケ、フジノマンネングサ、ホンシノブゴケ VU:アスヒカズラ、ウダイカンバ、エンシュウツリフネ、クロベ、コイチヨウラン、サギソウ、ダンドタムラソウ、ハウチワカエデ、ハリモミ、ヒゲシバ、ヒメイチゲ、ヒロハハナヤスリ、ヒヨクソウ、ヤマシャクヤク、ルイヨウショウマ、シノブヒバゴケ</p> <p>【動物】 CR:コテングコウモリ、チャマダラセセリ VU:コキマダラセセリ、ギンイチモンジセセリ</p> <p>※希少種はレッドデータブックあいち 2009 の絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上の種を記載した。</p>
特徴づける環境	 <p>茶臼山のブナ林</p>


生物多様性ホットスポットの概要(②段戸山・寧比曾岳地域)

地域名	段戸山・寧比曾岳地域
自然環境の特徴	<p>段戸山の裏谷には愛知県内で最大面積のブナ林があり、スギランやヤシャビシヤク、マツランなどの着生植物やヨコグラヒメワラビ、ニッコウシダなどの希少な植物の生育確認記録がある。段戸山の尾根筋にはホンシヤクナゲが自生しており、太平洋側の分布の東限になっている。また、ミヤマチョウジザクラやオクヤマコウモリといった分布の南限となっている植物種の生育確認記録がある。</p> <p>動物では、ブナ林に生息しているヒメオオクワガタの生息確認記録がある。</p>
確認記録のある希少な動植物	<p>【植物】 CR: ニッコウシダ EN: オクヤマコウモリ、マツラン、ミヤマシグレ、ミヤマチョウジザクラ、ミヤマツチトリモチ、ヤシャビシヤク、ヨコグラヒメワラビ VU: アスヒカズラ、ウスバミヤマノコギリシダ、オクタマシダ、スギラン、ダンドタムラソウ、ナカミシラン、ハナヒリノキ、ホソエカエデ、ホソバシヤクナゲ、ホンシヤクナゲ、ミタケスゲ</p> <p>【動物】 CR: タケウチホソハナカミキリ、チャマダラセセリ EN: イガブチヒゲハナカミキリ、スジボソヤマキチョウ、ヒメオオクワガタ、ヒメヨツスジハナカミキリ</p> <p>※希少種はレッドデータブックあいち 2009 の絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上の種を記載した。</p>
特徴づける環境	 <p>段戸山のブナ林</p>

生物多様性ホットスポットの概要(③鳳来寺山地域)

地域名	鳳来寺山地域
自然環境の特徴	<p>鳳来寺山は、ヤブツバキクラスの植生でシイ・カシ二次林が多く分布している。また、地質的な特徴により急峻な地形が多く、屏風岩などの岩場が多い。このため、尾根部の岩場にはホソバシャクナゲ、沢沿いの岩場にはハナゼキシヨウなどの着生植物の生育確認記録がある。また、温暖多湿なため、イボマツバゴケ、タチチョウチンゴケなどの樹幹等に着生する蘚苔類の生育確認記録が多い。</p> <p>動物では、岩場が多いため、チチブコウモリ、テングコウモリといった洞窟性コウモリの生息確認記録がある。また、鳳来寺山が模式産地となっているホウライジギセルをはじめとした多くの陸産貝類の生息確認記録がある。</p>
確認記録のある希少な動植物	<p>【植物】 CR: ヒメヨモギ、イボマツバゴケ、スズキイクビゴケ、タチチョウチンゴケ EN: イヨクジャク、カシノキラン、クロバナキハギ、ジングウツツジ、 ナガバジュズネノキ、ヒノキシダ、フジバカマ、マツラン、ミヤマトベラ、 キブネゴケ、コバノイクビゴケ、トサヒラゴケ、ヒメハゴロモゴケ VU: オクタマシダ、キイトラッキョウ、コフキイワギボウシ、ナツエビネ、 ハナゼキシヨウ、ハマアカザ、ビロードノリウツギ、ホソバシャクナゲ、 オオシタバケビラゴケ、カビゴケ、クマノゴケ、クマノチョウジゴケ、 コキジノオゴケ、シフネルゴケ、ヤマトハクチョウゴケ</p> <p>【動物】 CR: チチブコウモリ、ミカワマイマイ、ホウライジギセル EN: テングコウモリ VU: モモジロコウモリ</p> <p>※希少種はレッドデータブックあいち 2009 の絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上の種を記載した。</p>
特徴づける環境	 <p>鳳来寺山の岩場</p>

生物多様性ホットスポットの概要(④雨生山地域)

地域名	雨生山地域
自然環境の特徴	<p>雨生山を含む地域の地質は塩基性岩地質(蛇紋岩)が含まれており、この地質に特有な蛇紋岩地植生が成立しており、ヒロハドウドンツツジ、ムラサキセンブリといった愛知県内でも本地域に特有な植物の生育確認記録がある。また、地質の影響により、草地在維持されている場所ではヒメヒカゲといった草地性の希少なチョウの生息確認記録がある。</p>
確認記録のある希少な動植物	<p>【植物】 CR: イッシンテンツキ、カガシラ、マツバニンジン EN: ミシマサイコ VU: アオヒエスゲ、アゼオトギリ、ウンヌケモドキ、キクアザミ、コケリンドウ、ゴマクサ、ヒロハドウドンツツジ、フキヤミツバ、ホタルカズラ、ミズトンボ、ムラサキセンブリ、ヤナギノギク、ヤマジソ、ヨツバハギ</p> <p>【動物】 CR: ヒメヒカゲ VU: ウラナミジャノメ</p> <p>※希少種はレッドデータブックあいち 2009 の絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上の種を記載した。</p>
特徴づける環境	 <p>雨生山蛇紋岩地植生</p>